

自動走行ビジネス活用アイデア募集について

平成 29 年 10 月 16 日
北海道自動走行ビジネス化調査研究プラットフォーム
(事務局：北海道経済部産業振興局産業振興課)

1 背景等

- ・自動走行は、国の CO₂ 排出量の 2 割を占める運輸部門において、環境負担軽減（加減速の自動化による燃料向上）や渋滞緩和、交通事故の削減など社会的課題の解決手段となり得るキーテクノロジーであることから、国の成長戦略の柱にも位置づけられ、研究開発と社会理解を促進する実証試験の両面から、官民あげて、実用化に向けた取組が進められています。
- ・こうした自動走行の研究開発は、全国最多のテストコースが集積している本道でも活発に行われ、さらなる研究開発拠点の集積に繋がる可能性があることから、道は、自動走行に関する「ワンストップ窓口」を設置し、公道実証試験の手続の一元的な対応や自動走行に関する様々な企業ニーズに応じるなど、企業による研究開発の推進を支援しています。
- ・また、道内では、交通事故件数が依然として多く、また少子高齢化による運転手不足への対処など、様々な課題があり、こうした課題への対処においても、自動走行は有効な手段となる可能性があると考えられます。
- ・こうしたことを背景に、道としては、自動走行を社会に根付かせる環境づくりを進めるため、サービスの質の向上や人手不足の緩和などに繋がる活用方法について、自動車を活用したビジネスを展開されている企業の皆さまからのアイデアを募集・取りまとめ、自動走行の研究開発を行っている企業に提案し、実現可能な提案については、具体化する取組を行うことといたしました。

2 自動走行の類型

① 運転者が乗車するタイプ

- ・LIDAR を使用するもの（3D マップの作成が必要）
- ・磁気マーカース式を使用するもの
- ・カメラと GPS によるもの

② 運転手が乗車せずに遠隔操作するタイプ

- ≡運転はシステムが担当し、1人で複数台運転可。

※①及び②のいずれも、緊急時には「人」が介入し停止。

3 ビジネス活用の例

① バリアフリー観光

観光地敷地内での自動走行による移動手段を提供することで、これまで移動に対し消極的であった高齢者や身体障がい者等による観光を実現し、新たな顧客の開拓につなげる。とりわけ、大規模公園、動物園や大規模「ガーデン」など敷地面積が広い施設においては、自動走行による安全安心な移動空間創出による効果は大きいものと期待される。

② バレーパーキング

道内空港においては、レンタカーのカウンター（受付）と営業所（貸渡場所）は離れており、地点間相互に送迎バスを運行。人手不足が深刻化するなか、カウンターと営業所間を自動走行することで、業務効率の改善と観光客等顧客満足の向上を同時に実現するほか、空港を活用することで、訪日外国人に対し、我が国の自動走行技術のショーケースとしてアピールが可能となる。

③ 運転代行

運転代行を行う際に、代行業者の帰路の動線を確保するため、現行では 2 人 1 組での業務が必須であるが、代行業者自らの車両に、顧客車両に追従する自動運転機能を付加することで、ワンマンでの対応が可能となり、繁忙期における顧客対応等需要変動に応じた柔軟な運行体制が確保できる。

4 ご提案いただいた活用アイデアの取扱いについて

- ・道において取りまとめ、テクニカルパートナー（自動走行の実証試験を行っている企業（エイ・ダブリュ・ソフトウェア等））に活用アイデアの実証について提案し、各企業の研究テーマとの親和性あれば、提案者とテクニカルパートナーの合意の下、順次実施していきます。
- ・別紙「自動走行ビジネス提案書」に必要事項を記入し、随時、事務局（北海道経済部産業振興局産業振興課）あて提出してください。
- ・「自動走行ビジネス提案書」記載内容については、「公開」を原則として取扱わせていただきますので、予めご了承願います。